

「岡谷市石造文化財第一集」正誤表

頁	行	誤	正
1	右から5行 下から7字目	伊 奨 諸 尊	伊 奨 諾 尊
1	右から6行 下から13字目	伊 奨 諸 尊	伊 奨 諾 尊
1	右から8行 下から11字目	相 形	祖 形
1	右から12行 上から25字目	芝 宮	柴 宮
2	右から2行 下から4字目 <small>(2. 今井道祖神)</small>	下 今 井 公 民 館	下 今 井 公 会 所
3	右から2行 下から4字目 <small>(3. 今井道祖神)</small>	下 今 井 公 民 館	下 今 井 公 会 所
4	右から1行 上から4字目 <small>(6.7. 間下道祖神)</small>	間 下 公 民 館 前	間 下 公 会 堂 前
7	右から2行 下から4字目 <small>(13. 岡谷新屋敷)</small>	新 屋 敷 区 公 民 館 前	新 屋 敷 区 公 会 所 前
15	右から2行 下から5字目 <small>(31. 湊小田井)</small>	小 田 井 母 玉 社	小 田 井 舟 玉 社
33	右から6行 下から10字目	美 事	見 事

まえがき

石造文化財という、呼び名は戦後経済の、高度成長に伴って、文化財の保護がおろそかにされる傾向が生じたため、これに対応してつくられたもので、いろいろの文化財のうち石でつくられたものの総称といえましょう。

近年経済の発展に伴う、地域の人びとの生活や信仰の変化によって、古い姿が失われるおそれがでてきました。特に石造文化財は多くが道路わきや辻にあるため、道路の拡張とか、土地造成の関係で、場所が変わったり、散逸する危険にさらされております。

当委員会では、こうした事情を考慮して、石造文化財のうちとりあえずその保護の上で緊急性の高い、道祖神・道しるべなどを、調査してまとめました。

これらの石造物をつくった人とか時期などは、大部分不明ですが、私たちの祖先が生活した社会における貴重な遺産であることはたしかです。

いくら生活水準があがっても、文化が発展しても、貴重な文化遺産は大切に保護して後世に受けついで、ゆかねばなりません。この出版物が動機になって、道祖神や道しるべをたずねる人がふえ、その姿や伝承にふれることによって、石造文化財をより深く理解する人のふえることを願ってやみません。

文化財がひとり行政の力だけで保存できるものでないことを思うとき大ぜいの市民、特に地域の方々のご協力によって、貴重な石造文化財が保護されてゆくことを心から期待申しあげます。

この出版物を刊行するにあたり、調査を担当された、文化財審議委員をはじめ、調査にご協力くださった多くの市民の方々に深く感謝の意を表します。

昭和五十年三月

岡谷市教育委員会

教育長 久保義幸

例言

1、この本にのせてある道祖神および石祠・道標は昭和四十七年度に行った、文化財審議会の調査に基いて調査編集したものである。

2、写真及び資料は各地区毎にまとめた。

3、各道祖神及び石祠・道標には一連番号をつけ末尾の地図と照応出来るようにした。

4、実測寸法は石高・碑幅とし台石は含まない。

5、岡谷市の場合、道祖神・道標・石祠の所有者はほとんどが共有で個人有はない。

6、造立年代および伝承は不明なものが多い。

7、祭祀場については現在よばれている呼び名とした。

目次

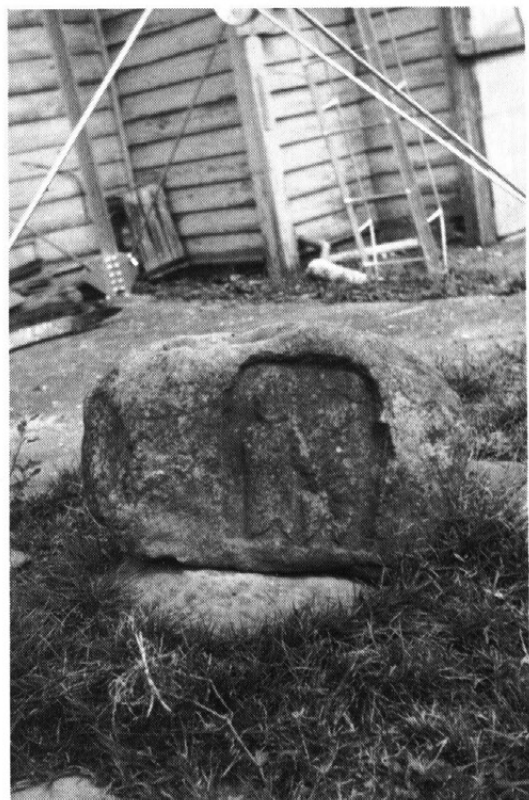
1 旧市内における道祖神	2
2 湊地区における道祖神	13
3 川岸地区における道祖神	16
4 長地地区における道祖神	26
5 岡谷市内における石祠	33
6 岡谷市内における道標	39

道祖神

岡谷地方で祀られている道祖神は双体像と文字碑が多く石祠はまれである。道祖神については近年多くの研究者や各市町村の文化財関係などによる調査が行われてあらためて、人々に見なおされてきている。どんな関係で太古から祀られて来たのか定説はないが伝承されてきているものを取り上げておお方の参考にした。諏訪市文出の道祖神のように猿田彦の命（さるたひこのみこと）・天宇受売命（あめのうずめのみこと）などと神名を刻んだ道祖神があり一応記紀による天孫降臨のときの（さるたひこのみこと）・伊奘冉尊（いざなぎのみこと）の黄泉平坂（よもつひらさか）における神話のなかに伊奘諸尊（いざなぎのみこと）・伊奘冉尊（いざなみのみこと）の黄泉平坂（よもつひらさか）における神話のなかに伊奘諸尊（いざなぎのみこと）が黄泉（よみ）の国からにげ帰って来る時に追って来る鬼達に逃げながら投げ捨ててくる枝に「みあれ」した岐神（くなどかみ）・長道磐神（ながちかはがみ）・泉門（よみど）を塞いだ大石が塞の神（さえの神）などでいづれも道祖神の相形であるとされている男女両神（双体）を一石に刻んで祭る道祖神の形は古くからあったと考えられるが石像に刻んである年号は、江戸時代中期以後のものほとんどである。文字碑は双体像にくらべてあたらしく双体像のかわりとして建られたと思われるものが多い。岡谷地方に於ける双体像で年号のわかる最古のものは承応三年といわれる新屋敷のもので、文字碑では川岸志平にある天明元年十一月吉日の刻のあるものである。特異な文字碑としては長地芝宮境内にある幸之神（さいのかみ）の刻のあるものが諏訪地方では唯一のものである。道祖神の祭事はお事（こと）八日（十二月八日と二月八日）に行われまた一月七日・十五日にかけてお松やき（しめ焼）や厄なげなどの年中行事が行われている。土地の古老の話では……

「道祖神はへぼい神様で他の神様達が出雲の国へ神集（かみつどい）に出掛の時もるす番にまわっているし、るす番中の出来事を神様達に報告されては困るので目や口が使えないように顔中に餅を塗りつけられたりしている」……と庶民にはごく身近な神様である。ほんらいは道境や部落境に祀られまた長地地区の横川や川岸の新倉・駒沢などに見られるように部落の辻々に祀られているといった所もあり、衢神（みまたがみ）としての性格もうかがわれるが現在は道路の拡幅や土地造成などによって、祀られた当初の場所にいる道祖神はごく少なく多くの道祖神は社地などの公共地に移されている。道祖神を祀である場所を道祖神場と呼び子供達の遊び場になっている。

昔は「ほうそ」や流行病（はやりやまい）の流し場として、また安産や嫁取りなどの折にも庶民に祈り祀られよるす相談引受所のおもむきがある。最近みしゃぐじ信仰と諏訪明神とのつながり、道祖道信仰とみしゃぐじ信仰との関係、また美術品としての面からの研究なども行われているが編年や祭指などの研究は少ない。



1 今井道祖神

所在地 岡谷市今井区旧道屯所前

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高50cm×巾70cm

記なし



2 今井道祖神(二体合福の内1)

所在地 岡谷市今井区下今井公民館前

造立年代 不明

像の形態 御幣刻文字碑

大きさ 高83cm×巾70cm

記なし



3 今井道祖神 (二体合楯の内2)

所在地 岡谷市今井区下今井公民館前

造立年代 明治三十四年三月二十日再建

像の形態 文字碑

大きさ 高70cm × 巾57cm

記 間下村境にありしを道路拡巾のため
同地に移動



4 間下県道ぞい道祖神 (二体合楯の内1)

所在地 岡谷市間下区滝の上

造立年代 不明

像の形態 文字碑

大きさ 高78cm × 巾57cm

記 今井村との境にありしを道路拡巾のため
同地に移動



5 間下県道ぞい道祖神(二体合楯の内2)

所在地 岡谷市間下区滝の上

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高50cm×巾35cm

記 伝承あり

6・7 間下公民館前道祖神(二体合楯)

所在地 岡谷市間下区字間下

造立年代 右 不明 左 不明

像の形態 右 双体像 左 双体像

大きさ 右 高65cm×巾58cm 左 高55cm×巾50cm

記 なし





8・9 岡谷市岡谷保育所前道祖神（二体合楯）

所在地 岡谷市岡谷区小部沢社境内

造立年代 右 安永甲午年五月吉日（一七七四年）

左 不 明

像の形態 右 双体像

左 双体像

大きさ 右 高70cm×巾45cm

左 高45cm×巾35cm

記

岡谷地方では、子供が道祖神をコンボータ、コンボータとはやして石でこつこつ掘ったために道祖神に凹穴がたぐさんある。この像のように顔のまん中に凹があるものもある。

10 岡谷市岡谷十五社神社道祖神

所在地 岡谷市岡谷区十五社参道

造立年代 不明（安永三年との説あり）

像の形態 双体像

大きさ 高45cm×巾50cm

記 なし



11 岡谷市下浜湖畔街道添い道祖神

所在地 岡谷市下浜区浜浦

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高35cm×巾35cm

記 なし

12 岡谷市上浜公民館下道祖神

所在地 岡谷市上浜区上浜

造立年代 享保二十一年辰三月（一七三六年）

像の形態 双体像

大きさ 高80cm×巾50cm

記 享保二十一年（一七三六年）は四月より天文と改元された。



13 岡谷市新屋敷道祖神

所在地 岡谷市新屋敷区公民館前

造立年代 承応三年（一六五四年）（伝承による）

像の形態 双体像（まもうはげしい）

大きさ 高75cm×巾75cm

記 造立年代のはっきりしているものでは岡谷最古である。



14 小尾口旧道辻道祖神

所在地 岡谷市小尾口区野村医院前

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高66cm×巾60cm

記 なし



15・16 岡谷市小口区道祖神(二体合箱)

所在地 岡谷市小口区薬師堂境内

造立年代 不明

像の形態 右 双体像
左 双体像

大きさ 右 高75cm×45cm
左 高72cm×巾45cm

記 賀茂社入口より道路拡巾の折り移す。



17 小井川上小井川旧道道祖神

所在地 岡谷市小井川区往還下

造立年代 明治二十七年（一八九四年）

像の形態 文字碑

大きさ 高70cm×巾85cm

記 なし



18 小井川賀茂神社道祖神（二体合箱の内1）

所在地 小井川賀茂神社境内

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高100cm×巾60cm

記 なし

19 小井川賀茂神社道祖神(二体合楯の内2)

所在地 小井川賀茂神社境内

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高65cm×巾55cm

記 なし



20 小井川西小路道祖神

所在地 岡谷市小井川区横川山事務所西側

造立年代 不明

像の形態 文字碑

大きさ 高65cm×巾80cm

記 なし

21 小井川中小路道祖神

所在地 岡谷市小井川区中小路

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高80cm×巾100cm

記 なし



22 小井川若宮道祖神

所在地 岡谷市小井川区若宮八幡社境内

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高75cm×巾40cm

記 なし



23・24 西堀八幡宮辻道祖神(四体合箱)

所在地 岡谷市西堀区八幡宮辻

造立年代 不明

像の形態 右 文字碑
左 文字碑

大きさ 右 高75cm×巾100cm
左 高100cm×巾75cm

記 なし



25・26 西堀八幡宮辻道祖神(四体合箱)

所在地 岡谷市西堀区八幡宮辻

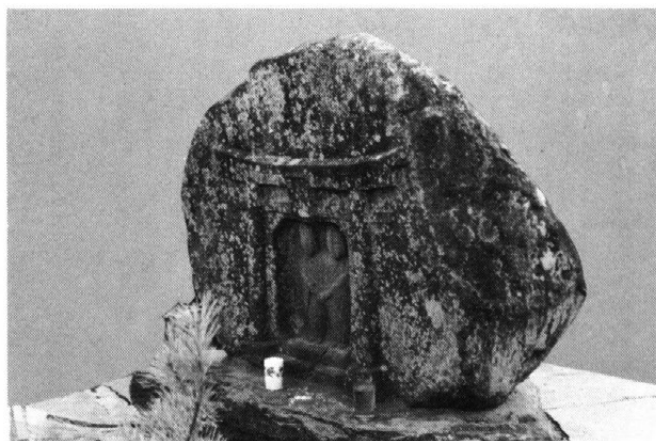
造立年代 不明

像の形態 右 双体像
左 双体像

大きさ 右 高60cm×巾40cm
左 高70cm×巾40cm

記 なし





27 湊花岡湖畔街道脇道祖神(二体合楯の内1)

所在地 岡谷市湊花岡南部中学南

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高125cm×巾125cm

記 昔旧道側にあったが、バイパスができて

現在地に出て来た。

28 湊花岡湖畔街道脇道祖神(二体合楯の内2)

所在地 岡谷市湊花岡南部中学南

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高55cm×巾45cm

記 なし



29 湊花岡北組道祖神

所在地 岡谷市湊花岡北組

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高54cm×巾41cm

記 石垣の中に入っていたものが道路ばたに出た。



30 湊小田井道祖神(二体合箱1)

所在地 岡谷市湊小田井舟玉社境内

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高120cm×巾105cm

記 九月十日に祭を行ない、三重の松を立てる。

31 湊小田井道祖神(二体合箱2)

所在地 岡谷市湊小田井母玉社境内

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高45cm×巾45cm

記 なし



32 湊小坂道祖神

所在地 岡谷市湊重石

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高65cm×巾45cm

記 なし



33 川岸熊野神社道祖神

所在地 岡谷市三沢熊野神社境内

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高44cm×巾43cm

記 なし



34 川岸三沢墓地入口道祖神

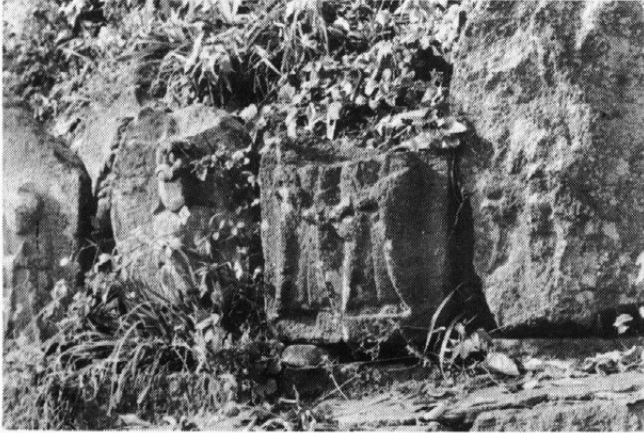
所在地 岡谷市三沢

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高30cm×巾30cm

記 上部欠損



35 川岸丸山道祖神(1)

所在地 岡谷市川岸丸山川岸支所西側

造立年代 明治二十一年戊子年一月吉日(一八八八年)

像の形態 双体像

大きさ 高100cm×巾115cm

記 なし



36 川岸丸山道祖神(2)

所在地 岡谷市川岸丸山川岸支所西側

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高30cm×巾25cm

記 近年土中から多数の石仏とともに掘りだす。



37 川岸沢水源道祖神

所在地 岡谷市川岸新倉沢水源下

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高60cm×巾34cm

記 なし



38 川岸新倉沢中道祖神

所在地 岡谷市川岸新倉沢中

造立年代 不明

像の形態 文字碑

大きさ 高30cm×巾20cm

記 写真左



39 川岸新倉辻道祖神

所在地 岡谷市川岸新倉沢村辻

造立年代 不明

像の形態 石 祠

大きさ 高66cm×巾41cm×奥行46cm

記 なし



40 川岸塩坪道祖神

所在地 岡谷市川岸新倉塩坪

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高45cm×巾23cm

記 道祖神が蓮台に乗っている



41 川岸塩坪道祖神

所在地 岡谷市川岸新倉塩坪

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高83cm×巾85cm

記 彩色がある。



42・43 川岸夏明道祖神(二体合楯)

所在地 岡谷市川岸新倉夏明

造立年代 不明

像の形態 左右 双体像

大きさ 右 高123cm×巾80cm

左 高50cm×巾35cm

記 なし



44 川岸夏明毘沙門道祖神

所在地 岡谷市川岸夏明毘沙門前

造立年代 不明

像の形態 石 祠

大きさ 高65cm×巾29cm×奥行45cm

記 湖北地区ではめずらしくととのった石祠である。



45 川岸駒沢御射宮司道祖神

所在地 岡谷市川岸駒沢御射宮司境内

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高70cm×巾45cm

記 なし



46 川岸駒沢渡之芝道祖神

所在地 岡谷市川岸駒沢渡之芝

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高60cm×巾42cm

記 なし



47 川岸駒沢清水屋前道祖神

所在地 岡谷市川岸駒沢原

造立年代 不明

像の形態 文字碑

大きさ 高85cm×巾66cm

記 なし





50 川岸鮎沢薬師堂上道祖神

所在地 岡谷市川岸鮎沢薬師堂上

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高50cm×巾45cm

記 なし



51 川岸鮎沢薬師堂裏道祖神

所在地 岡谷市川岸鮎沢薬師堂墓地

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高40cm×巾30cm

記 なし

48 川岸駒沢新田道祖神

所在地 岡谷市川岸駒沢新田

造立年代 不明

像の形態 石祠

大きさ 高45cm×巾36cm×奥行32cm

記 屋根が乗せちがえてある。



49 川岸鮎沢諏訪神社道祖神

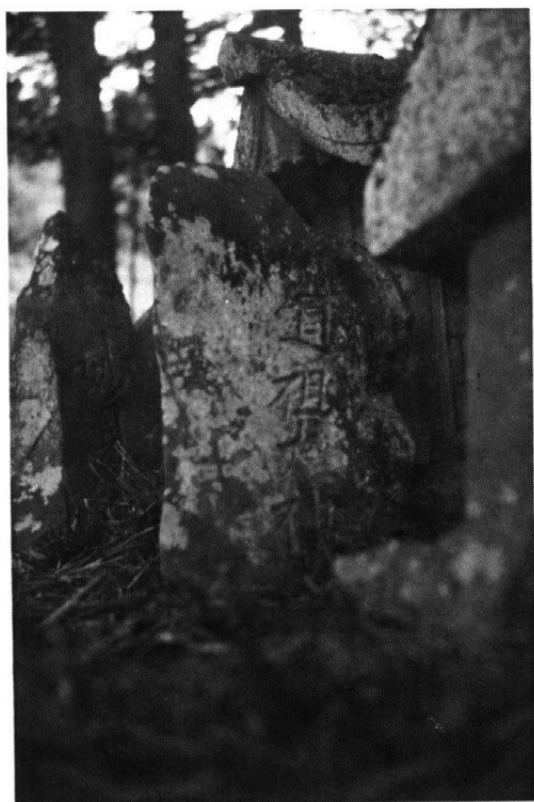
所在地 岡谷市川岸鮎沢諏訪神社境内

造立年代 不明

像の形態 文字碑

大きさ 高59cm×巾40cm

記 なし



52 川岸志平道祖神

所在地 岡谷市川岸志平堂庭

造立年代 天明元年十一月十二日(一七八二年)

像の形態 文字碑(角柱)

大きさ 高55cm×巾20cm×厚15cm

記 年代のわかる文字碑としては諏訪地方最古である。



53 川岸橋原道祖神

所在地 岡谷市川岸橋原上

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高66cm×巾75cm

記 なし



54 川岸橋原洩矢社東道祖神

所在地 岡谷市川岸橋原洩矢神社東

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高46cm×巾44cm

記 なし



55 長地横川道祖神

所在地 岡谷市長地横川大橋下

造立年代 明治三年（一八七〇年）

像の形態 文字碑

大きさ 高64cm×巾65cm

記 なし



56 長地横川溝口道祖神

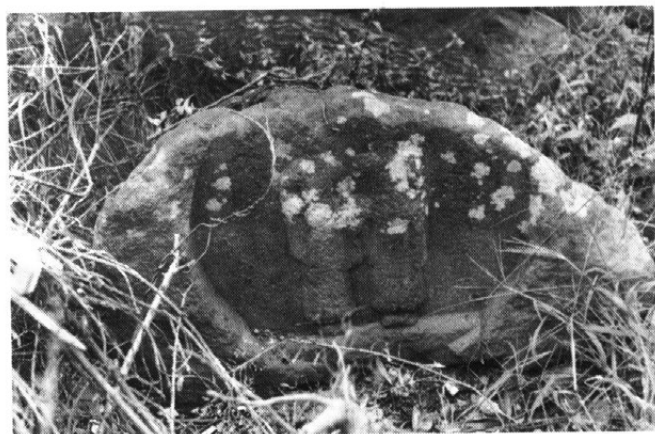
所在地 岡谷市長地横川溝口

造立年代 不明

像の形態 文字碑

大きさ 高77cm×巾65cm

記 なし



57 長地横川横道道祖神

所在地 岡谷市長地横川横道

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高55cm×巾100cm

記 コンボータの穴多し。

58 長地横川南道祖神(二体合箱1)

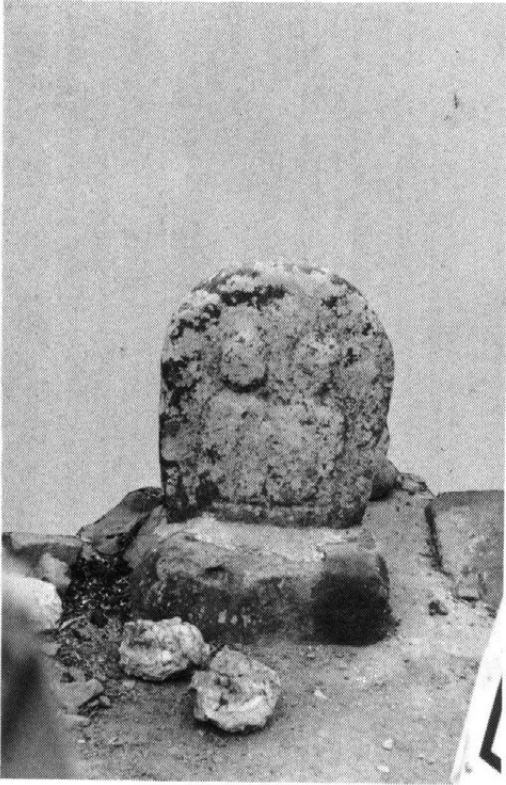
所在地 岡谷市長地横川

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高44cm×巾39cm

記 なし



59 長地横川南道祖神(二体合箱2)

所在地 岡谷市長地横川

造立年代 不明

像の形態 文字碑

大きさ 高100cm×巾100cm

記 なし

60 長地中屋道祖神

所在地 岡谷市長地中屋公民館前

造立年代 不明

像の形態 双体像

大きさ 高55cm×巾50cm

記 なし



61・62 長地東堀道祖神(六体合指1)

所在地 岡谷市長地東堀八幡社境内

造立年代 不明

像の形態 右 双体像
左 双体像

大きさ 右 高75cm×巾88cm
左 高65cm×巾63cm

記 なし

63・64 長地東堀道祖神（六体合箱2）

所在地 岡谷市長地東堀八幡社境内

造立年代 不明

像の形態 右 双体像
左 双体像

大きさ 右 高63cm×巾78cm
左 高50cm×巾54cm

記 なし



65・66 長地東堀道祖神（六体合箱3）

所在地 岡谷市長地東堀八幡社境内

造立年代 不明

像の形態 右 双体像
左 文字碑

大きさ 右 高70cm×巾50cm
左 高72cm×巾40cm

記 幸の神の文字碑は湖北で一ヶ。

67 東堀赤砂権現下道祖神

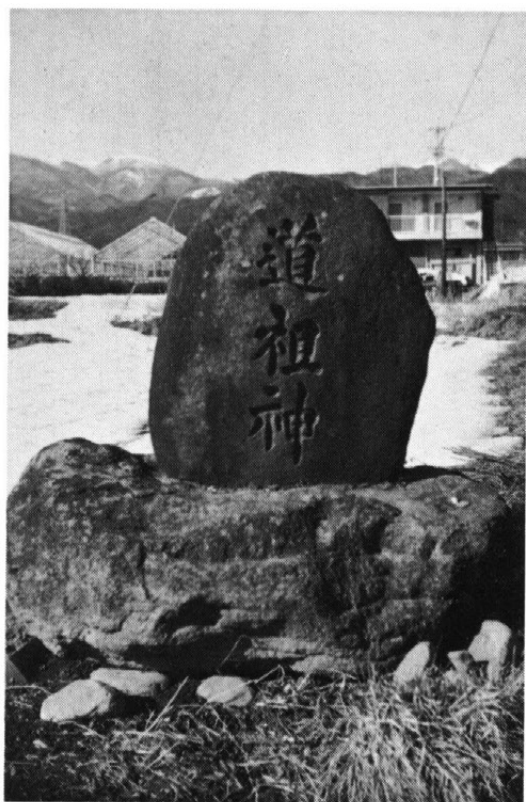
所在地 岡谷市東堀赤砂権現下

造立年代 不明

像の形態 文字碑

大きさ 高77cm×巾75cm

記 なし



石 祠

石祠は神を祀る祠（ほくら）で、岡谷市内には古くから村人達に祀られ信仰されていた石祠が多い。市内各地区の鎮守には一祠か二祠は鎮座している。石は古来より神霊がこもるものとして庶民信仰のなかに生きており現在も続いている。そのためか立派な石祠が多い。各鎮守ともある時代（主として寛政年間中）にいつせいに石宮から板宮に建かわっているが、それ以前の鎮守の本殿はほとんどが石祠である。それらの石祠の内、天王森・小口賀茂神社・下浜御射宮司社（みしやくうじしゃ）などの祠は大きく美事である。造立年代は資料・刻などによりわかるものが四祠ある。小口賀茂神社境内の石祠には慶安四年辛卯（二六五一年）と読みとれる文字が刻まれており、天王森の石祠は資料「小社神号記」により明暦二年（一六五六年）とわかる。下浜御射宮司石祠の寛文七年（一六六七年）、川岸駒沢・諏訪社境内の石祠天和二年（一六八二年）などである。西堀八幡社にある御嶽講石祠おんたけは唐破風で柱飾りや懸魚・垂木・虹梁など手のこんだ細工がしてあり石工の技術がしのばれる。市内にはマキや一族の祝殿などの小形ではあるが形のととのったものが見られるがこの報告書には取り上げてない。

1 新屋敷天王森石祠

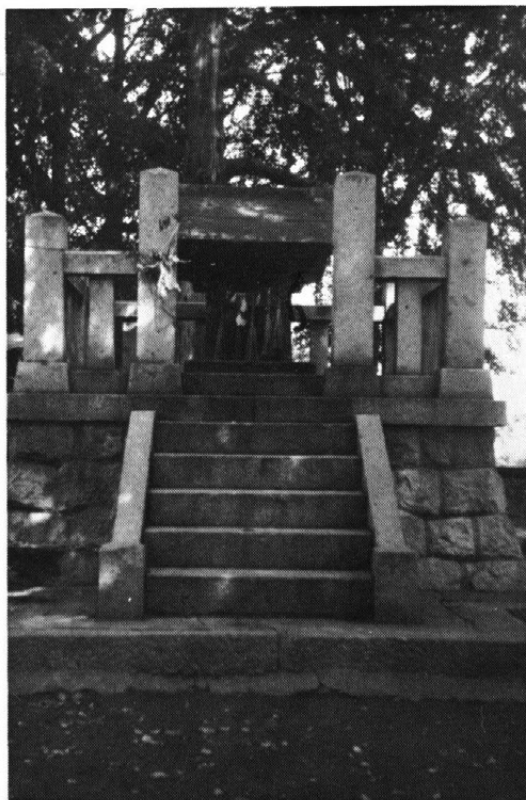
所在地 岡谷市新屋敷天王海戸

造立年代 明暦二年（一六五六）年

大きさ 高170cm×巾130cm×奥行160cm

記 「小社神号記」に記載あり。下すじ

第一の大祠である。



2 下浜御射宮司石祠

所在地 岡谷市下浜御射宮司境内

造立年代 寛文七年（一六六七）年

大きさ 高112cm×巾85cm×奥行94cm

記 なし



3 小口賀茂神社石祠

所在地 岡谷市小口賀茂神社境内

造立年代 慶安四年（一六五一年）

大きさ 高144×巾69cm×奥行68cm

記 岡谷でめいのわかるものでは最古のものである。



4 今井白山権現石祠

所在地 岡谷市今井区字権現

造立年代 不明

大きさ 高164cm×巾85cm×奥行88cm

記 今井十五社本殿石祠であったものが寛政年間に同所に移された。「小社神号記」



5 西堀南宮社石祠

所在地 岡谷市西堀区八幡社境内

造立年代 不明

大きさ 高64cm×巾40cm×奥行27cm

記 昔は横河川沿にあり「御頭郷御射宮司おろし」などの神事もおこなわれて、当地方としては重要な神社であった。



6 西堀八幡社石祠

所在地 岡谷市西堀区八幡社境内

造立年代 嘉永六年癸丑（一八五三年）寄附帳による

大きさ 高125cm×巾86cm×奥行117cm

記 御獄講中にて祀を行なっている
西堀講中四十六軒位
石工 西山田 平蔵



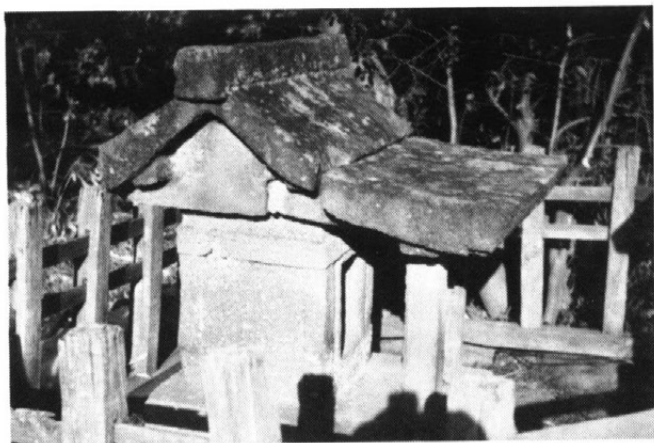
7 下今井山之神石祠

所在地 岡谷市中山字山之神

造立年代 不 明

大きさ 高129 cm × 巾94 cm × 奥行120 cm

記 もと問下十五社本殿石祠



8 川岸駒沢諏訪社石祠

所在地 岡谷市川岸駒沢諏訪神社境内

造立年代 天和二年壬戌（一六八二年）

大きさ 高97 cm × 巾87 cm × 奥行84 cm

記 まおおさま

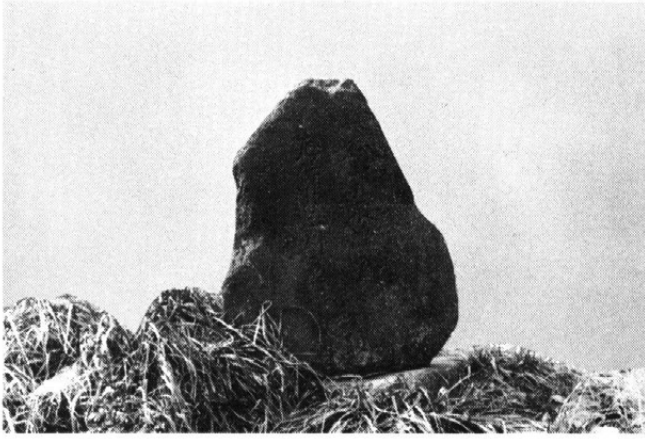
道標

道しるべ（道標）は旅をする人々への土地の人達の心くばりか、たとえば、長地地区には塩尻道の文字と手の指さし図を刻んだほほえましいものがある。本来道しるべは、江戸時代に徳川幕府による道路整備策とあいまって一里塚などと共に処々に立てられたものが多い。本来目的地（つぎの宿場、また江戸・京都など）への里程などを刻んだものが多いが、岡谷地方には里程を刻んであるものは見あたらない。また供養塔や石神を兼ねたものもあり、第六天⁽¹⁾の台石に刻んだものや逆に道標へ百万遍供養塔などを刻んで供養しているものもある。岡谷地方は古来鎌倉街道が長地山の手を廻り、今井間下岡谷の西山山麓から川岸へ天竜川を渡って湊の山裾を神宮寺へ通っており近世には中仙道・伊那道が通過している。ことに中仙道は五街道の一つで開通の初期に道路のつけかえ⁽²⁾がおこなわれており、その道筋には道しるべの立っているものが多い。

- (1) 修験道者（山伏）の信仰していた仙神でこれが一般に広まったものである。
- (2) 慶長一九年に三沢筋から塩尻峠筋へ移った。『岡谷市史』

1 三沢一里塚下道標

所在地 岡谷市川岸三沢
造立年代 不 明
大きさ 高80cm×巾60cm
記 右 小野木曾道
左 伊那三州道



2 川岸観蜚橋わき道標

所在地 岡谷市川岸新倉観蜚橋脇
造立年代 嘉永六癸巳三月(一八五三年)
大きさ 高70cm×巾70cm
記 右 むら道
左 いい田道 へ一徳之水神



3 川岸一里塚 (五十七里塚)

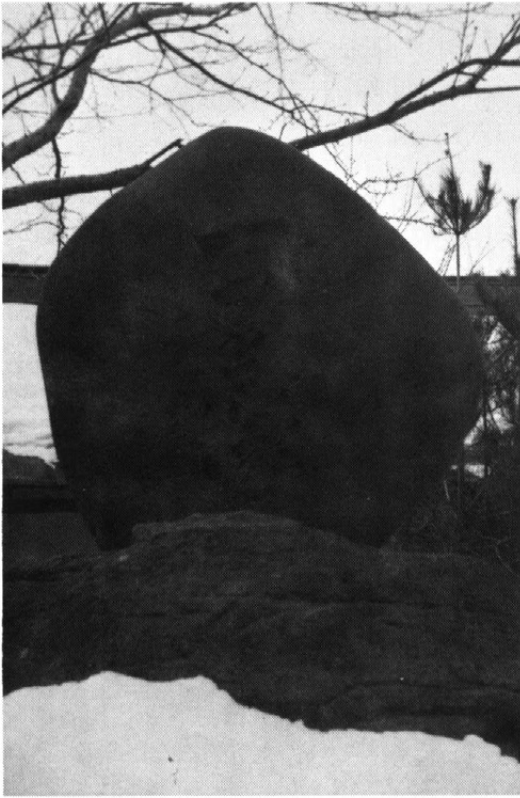
所在地 岡谷市川岸三沢塚の元

造立年代 大正十四年六月 (一九二五年)

大きさ 高85cm × 巾90cm

記 表面 一里塚

裏面 一里塚は其の起源年代を審にせず徳川氏の治世に至り略備る諏訪郡川岸村三沢区にその遺蹟あり明治大正の世交通の発達に伴ひ遺蹟潮く煙滅せむとす三沢区青年会之を慮り其の保存を策し碑を立て之を永久に伝へんとす……云々



4 花岡権現道標

所在地 岡谷市湊花岡権現三叉路辻

造立年代 不明

大きさ 高54cm × 巾20cm

記 右 作場道

左 神宮寺道



5 長地扇橋道標

所在地 岡谷市長地中屋扇橋

造立年代 不明

大きさ 高50cm×巾30cm

記 塩尻道指さしの刻あり



6 長地中屋道標

所在地 岡谷市長地中屋公民館西

造立年代 不明

大きさ 高63cm×巾45cm

記 左 塩尻道



7 長地中屋道標

所在地 岡谷市長地中屋エノキ垣外

造立年代 不明

大きさ 高50cm×巾30cm

記 右 塩志り道



8 長地中村屯所辻道標

所在地 岡谷市長地中村屯所辻

造立年代 不明

大きさ 高50cm×巾30cm

記 左 塩尻道



9 長地東堀旧道辻道標

所在地 岡谷市東堀中町

造立年代 寛政三年辛亥十二月（一七八九年）

大きさ 高130 cm × 巾73 cm × 厚60 cm

記 右 中仙道

左 いなみち

百万遍供養塔の刻あり



10 長地東堀八幡社境内第六天みちしるべ

所在地 岡谷市長地東堀八幡社境内

造立年代 安政五年九月（一八五八年）

大きさ 台 高115 cm × 巾70 cm

碑 高126 cm × 巾87 cm

記 第六天石碑台石

左 飯田道



編集後記

岡谷市には多種類の石造物があります。たとえば、庚申・第六天・二十三夜塔・供養塔・石仏・馬頭観音・石幢・石燈籠その他——などのうち、この第一集には、道祖神・石祠・道標をとりあげました。ねらいは石造物の戸籍簿という考え方で収録しました。

道祖神や道標は近年の道路整備や土地拡張工事などで、ほとんどがその位置を再三動かされていて最初に建立した場所は、なかなかはっきりしません。したがって付録の地図に記入した位置は、現在の位置を示しました。

石造物の伝承や祭祈の方法などについて、土地の古老に聞きとり調査を考えたいですが、明らかにすることはなかなかむずかしいことです。種々のことからについては博物館をはじめ多くの先生方から、御教授をいただき上梓の運びとなったことについて深く感謝申し上げます。

(上条記)

市内道祖神・石祠・道標一覧表

種別	双体像	文字碑	石祠	その他	年代刻	合計	
道祖神	47	17	3		7	67	
道標		9		1		10	道標については一里塚がある。
石祠			8		4	8	

(石祠についてはマキやその他の祝殿などの小祠は取り上げてない。)

郷土の文化財

1. 海戸 (第一次調査報告) 昭和42年刊 (品切)
2. 海戸 (第二次調査報告) 昭和43年刊 (品切)
3. 後田原遺跡 昭和45年刊 (品切)
4. 蚕糸博物館 昭和45年刊
5. 長塚遺跡 昭和46年刊 (品切)
6. 梨久保遺跡 昭和48年刊 (品切)
7. 扇平遺跡 昭和49年刊

岡谷市の石造文化財

発行年月日 昭和50年3月30日

発行者 岡谷市教育委員会
(岡谷市幸町8番1号)

編集者 岡谷市教育委員会

印刷所 株式会社諏訪印刷